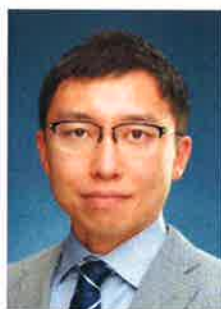


## 受賞のことば

日本小児循環器学会では平成27年より公益財団法人宮田心臓病研究振興基金からの寄付を受け、「Miyata Foundation Award日本小児循環器学会研究奨励賞」を設立しました。9回目となる本年度は中釜 悠先生（大阪公立大学 大学院医学研究科 感染症科学研究センター ウイルス・寄生虫学分野 准教授）、三好剛一先生（国立成育医療研究センター 臨床研究センター）が受賞され、7月の学術集會時に表彰式が開催されました。



中釜 悠 先生

大阪公立大学 大学院医学研究科

感染症科学研究センター ウイルス・寄生虫学分野 准教授

この度は、第9回 Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞に選出頂き、宮田宏章理事長ならびに小児循環器学会の関係各位に心より御礼申し上げます。RASopathyは小児期発症肥大型心筋症（HCM）の原因のおよそ1/8、幼児期発症HCMの原因の最大1/3を占め、小児循環器病学の重点疾患群です。にも関わらず、近年の研究では、RASopathy患者に提供される医療の水準が不十分であることが指摘されており、RASopathy心臓ケアの質向上はclear and present needsと言えます。さて、細胞増殖の重要シグナル伝達経路として見つかったRAS/MAPK経路は、分化、成熟、老化、死など、細胞の生物学的プロセスに多面的に関わっており、RAS/MAPK経路の各因子は、RASopathyの原因遺伝子であるとともに、体細胞変異により発癌を駆動します。敢えて、癌の分子病態に擬えてRASopathyの心筋細胞異常を眺めてみることで、病態解明に向けた次なるステップへのヒントが見えてくるかもしれません。本提案では、細胞周期制御、疾患代謝、DNA酸化損傷をキーワードに、RAS/MAPKシグナル制御異常を抱える体細胞の共通pathologyを模索します。病態解明から特異的治療開発への飛躍を実現するために、我々は臨床医学と基礎研究の協奏によるエビデンス収集体制を構築して参ります。



三好 剛一 先生

国立成育医療研究センター 臨床研究センター

この度は、第9回Miyata Foundation Award日本小児循環器学会研究奨励賞を受賞させていただき誠にありがとうございました。宮田和子理事長並びに、選考の労をお取りいただいた小児循環器学会の先生方に心より御礼申し上げます。

今回受賞させていただいた研究テーマは、「胎児心室頻拍（VT）に関する全国調査研究」になります。胎児上室頻拍・心房粗動については、これまで日本胎児不整脈班を中心として、世界に先駆けて胎児治療プロトコルに基づいた多施設共同臨床試験を実施し、胎児治療の有効性及び安全性プロファイルを示してきました。他方、胎児VTは、超希少疾患であり不明な点が多いものの、診断や治療に難渋する症例を経験することから、その実態の解明及び管理指針の策定は、胎児不整脈領域における残された課題の1つになります。

本研究では、全国の主要周産期・小児施設を対象として、胎児VTに関する情報を広く収集することを計画しています。まずは本邦における胎児VTの出現状況及び予後などの実態を明らかにし、診断時における特徴的な所見を特定し、本邦で実施されている胎児治療の有効性及び安全性プロファイルを明らかにすることで、適切な周産期管理方法を提案したいと考えています。全国調査へのご協力の程よろしく願いいたします。